

浅灘拓  
大川こはる  
笠河英雄  
河東けい  
門田草  
金子順子  
鈴木泰子  
高津征郎  
竹橋団  
名取由美子  
服部桃子  
保木本佳子  
堀部由加里  
路井恵美子  
南澤あつ子  
宮田圭洋  
宮村信吾  
森本竜一  
巨敏治

1977年初演の太田省吾の「小町風伝」は、小劇場演劇の古典の名作と位置付けられています。今回の演出李潤澤氏は生前の太田省吾氏から韓国での上演を要請されたが実現できず、今回その要請に初めてこたえる舞台化に並々ならぬ意欲で望んでいます。

安アパートに住む一人の孤高の老婆が目覚めてからラーメンをすすめる朝食の一時に凝縮された世界、アパートの面々との生活の断面と、戦前の青春の中での生々とした人生、老いた現実の中での女の性、能の「卒塔婆小町」の現代版としての太田ワールドを34年経った今、韓国の演出家李潤澤が現在をどう描くか期待したい。

(第2回日韓演劇フェスティバル関西ブロック企画実行委員長) 堀江ひろゆき

# 太田省吾先生に対する記憶

## 李潤澤 (イ・ユンテク)

私は1986年釜山で『水の駅』を観た。その時太田省吾先生と転形劇場が釜山の公演に来て、私は先生にお会いできなかったが演劇だけを観た。私に深い印象を与えてくれた公演であったのだが、その公演後に転形劇場が解散したと聞いた。

太田省吾先生にはじめてお目にかかったのは、1990年夏、新宿タイニイアリス小劇場でだった。それは、『サンシッキム』という韓国の演劇(正確に言うと釜山カマコル小劇場演劇)を通じて、私の演出作をはじめ先生にお見せする機会であった。当時私は出演までしていた。公演をご覧になった先生は「舞う男の姿が悲しい」とおっしゃった。その年の9月、東京芸術劇場にて第2回東京国際演劇祭が開かれ、私の作・演出で『オグ-死の形式』が招聘公演で上演した。太田省吾先生は演劇祭の芸術監督でいらした。公演をご覧になった後、太田省吾先生は「君と一生を共にすると決めている俳優が何人いるのかね?」とおっしゃった。私は2人いると答えた。すると先生は「そのうち1人を私におくってくれるか?」と冗談半分本音半分でおっしゃった。当時、主演のソッチェル役をした男優(パク・ウノン)の足の動きが良いとおっしゃった。

釜山にあった我が団体演劇団コリベとカマコル小劇場の運営に苦しんでいたの、日本へ送れる人材はいませんか?と答えた。1992年『歳月の恵み』(岸田理生作 イ・ユンテック演出、日韓俳優合同公演、タイニイアリス制作)をご覧になった後、太田省吾先生はお酒を飲もうとおっしゃった。目付が変わるまで新宿から中野まで歩きながら開店している店を探し歩いた。その日の夜、太田省吾先生は私におっしゃった。「民族や伝統などの素材に縛られずもっと宇宙的で本質的なものを夢見てみる」と。その夜飲みながら、夜通したくさんのお話をしたのだが…今では太田省吾先生にも当時通訳をしてくださった在日韓国女性の李さんにもお会いできない。

太田省吾先生は遠くへ旅立たれたし、李先生は今どこでどのような姿で生きておられるのだろうか?当時、お会いした太田省吾先生のご夫人のみご健在でいらっしゃる。私が「小町風伝」を演出したいと電話すると喜

んでくださったとお言葉だけ聞いた。「小町風伝」は1992年太田省吾先生が私に演出をしてみないかと提案してくださった作品である。当時太田省吾先生は東京より電車で2時間はかかる地方都市の、新しくできた劇場の芸術監督でいらした。その劇場は不思議にも地球のように丸く傾いていて、その劇場にて山口昌男先生のセミナー講演「足の演技」を聞いた。私はその時にも釜山のカマコル小劇場の運営のため、日本に長くは滞在できないと伝えた。しかし先生が提案してくださったその作品はいつか必ず演出してみたいと伝えた。その約束を20年を経て実現することになった。



文化ゲリラ 李潤澤  
詩人・劇作家・演出家・シナリオライター・映画監督・ドラマ脚本家・密陽夏公演祝祭の芸術監督。1986年、演劇団コリベを創団、カマコル小劇場を立ち上げた。1990年代、韓国実験演劇の騎手として登場し、地域の演劇人としては最初に、「サンシッキム」(李ヒョンファ作)、「市民K」、「オグ」、「バボカクシ」等の作品でソウルに進出、韓国演劇界に衝撃を巻き起こした。1994年「請負人」、「旅立つ家族」(金義卿作)で東亜演劇賞及びソウル演劇祭受賞、1995年で東亜演劇大賞、演出賞大山文学賞等を総ナメし、韓国演劇を平定した。その後、伝統に基づいた言葉と身体を用いた舞台表現を通して、観客との疎通を図り続けると同時に、ミュージカルの演出及び制作を通じて、創作ミュージカルの可能性を発展させた。演劇活動を行ないながらも、詩や評論、シナリオ、テレビドラマ、新聞コラムを書く文学家でもあり続け、ミュージカル、舞踊、祝祭劇、イベントの演出など、多方面にわたって、最高の演出家として数えられる。前衛的な芸術家でもある。また、演技の訓練法に対しても関心を持ち、1995年、「我が劇研究所」を設立、演技訓練を通じて演技論の体系を導き出しており、ドイツや日本などで演技ワークショップを実施し、演劇団コリベのメソッドを発展させた。

1999年からは、密陽演劇村にて、演劇共同体を運営し、約50余名の団員達と共に、演劇制作及び演技訓練に対する実験を続けている。

### 一心寺シアター倶楽

〒543-0062 大阪府大阪市天王寺区逢阪 2-6-13  
TEL: 06-6774-4002

#### ◆各線天王寺駅下車

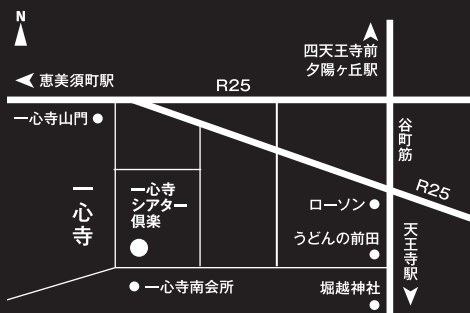
① 一心寺・四天王寺方面、あべちか⑥番出口を出て谷町筋を北へ徒歩8分。「うどんの前田」を左に曲がりまっすぐ進むと一心寺の白壁。右手の建物が一心寺三千佛堂。地階が劇場です。

#### ◆地下鉄堺筋線恵美須町駅下車

② 番出口を出て国道25号線を東(左側)へ徒歩8分。坂道を上って一心寺山門前を右側に曲がると劇場の看板が正面に見えます。

#### ◆四天王寺前夕陽ヶ丘駅下車

④ 番出口を出て谷町筋を南へ徒歩8分。「四天王寺前交差点」を右折。坂道を下って一心寺山門前を左側に曲がると劇場の看板が正面にみえます。



作/太田省吾 演出/李潤澤

演出助手/金美淑(キム・ミスク)

照明/趙仁坤(チョウ・インゴン)

舞台美術/金慶洙(キム・ギョンス)

音楽/ウォンイル

演出補・通訳/ユ・チャンヒ

台本翻訳/金世一(キム・セイル)

沈池娟(シム・デジョン)

ドラマツルギー/金世一(キム・セイル)

舞台監督/仲里良

制作/堀江ひろゆき・金子順子

田中孝弥・全リンダ

2012年

2月3日(金) 19:00 ★

4日(土) 14:00 ◎  
19:00

5日(日) 14:00

★=18:15~18:45

第2回日韓演劇フェスティバル  
in大阪 オープニングセレモニー

◎=アフタートーク有り

開場は各公演の30分前、受付は1時間前から行います。

尚、3日はオープニングセレモニー開催のため、18時から開場致します。

日時指定ではありませんが混雑が予想されますので、お問い合わせの際に観劇予定日時をお知らせ下さい。また、お早めのご来場をお願い致します。

前売 3,000円

当日 3,500円

### 【お問い合わせ】

第2回日韓演劇フェスティバル  
関西ブロック企画実行委員会

〒542-0012 中央区谷町7-1-39-315  
スタジオ315

TEL: 080-4025-2202

http://nikkanengeki.jimdo.com/

### 【チケットのご予約】

日韓演劇フェスティバル in大阪 チケットセンター(ヌーヴォ・スタシオン)  
劇団しし座 月~金:10時~18時

TEL&FAX: 06-6653-9339

nikkan.engeki.festival@gmail.com

日本演出者協会  
JAPAN DIRECTORS ASSOCIATION  
http://jda.jp/

日韓演劇  
フェスティバル  
in大阪